

令和5年度北海道大学大学院法学研究科
修士課程入学者選考試験（第1次）問題

試験科目名： 現代政治分析

持込み等： 不可

問1

国レベルの民主政治を比較したとき、あなたが今日の日本の民主政治の最も際立つ特徴と考えるものを、そう考える理由を明確にしつつ挙げたうえで、その特徴が何に起因するのか、あなたの考えを、それを支える理論的根拠を明確にしつつ論じなさい。 【50点】

問2

以下のような G・サルトーリの「政党システム」理解の画期性、およびそれに基づいて構築された政党システム論の具体的内容とその問題点を論じなさい。

“Parties make for a “system,” then, only when they are parts (in the plural); and a party system is precisely the system of interactions resulting from inter-party competition. That is, the system in question bears on the relatedness of parties to each other, on how each party is a function (in the mathematical sense) of the other parties and reacts, competitively or otherwise, to the other parties.” (Giovanni Sartori, *Parties and Party Systems: A Framework for Analysis* [Cambridge University Press, 1976], p.44)

【50点】

(問1と問2の解答の順序は自由)

令和5年度北海道大学大学院法学研究科
修士課程入学者選考試験（第1次）問題

試験科目名： 政治学

持込み等： 不可

以下の問いに答えなさい。

(1) 20世紀から今日まで、民主主義諸国において、「民主主義が危機にある」と主張する多くの理論・言説が提示されてきた。これらを任意の視点から整理して説明しなさい。

(50点)

(2) 国家は入国を希望する「移民」・「難民」をどのように処遇すべきか。自由民主主義の原理をふまえたうえで、任意の視点から論じなさい。

(50点)

(注意：いかなる視点から論じるのかを明確に述べること。)

令和5年度北海道大学大学院法学研究科
修士課程入学者選考試験（第1次）問題

試験科目名： 法哲学

持込み等： 不可

問題： 次の問1と問2に解答しなさい（解答順序は問わないが、解答に際してはどの問に対する解答かを明示すること）。

問1： 次の（1）～（5）のうちから三つ選んで、それぞれについて3～5行ほどで説明しなさい。（20点×3）

（1） 次の二つの概念について、両者の関係性がわかるように説明しなさい。

総量功利主義　いとわしい結論

（2） 次の二つの概念について、両者の違いがわかるように説明しなさい。

マクシミン・ルール　格差原理

（3） 次の二つの概念について、具体的な例を挙げつつ、その共通点と相違点を説明しなさい。

認知的合理化　適応的選好形成

（4） 次の二つの概念について、両者の違いがわかるように説明しなさい。

記述的法実証主義　規範的法実証主義

（5） 次の三つの概念について、それぞれの違いがわかるように説明しなさい。

市民的不服従　良心的拒否　革命

問2： あなた自身をもっとも説得的と考える正義構想について、その内容とそう考える理由を、他の正義構想と比較しつつ、現実の具体的な問題を一つ挙げながら、論じなさい。どの正義構想を選択しても採点には影響しないが、その正義構想の定義については正確かつ明快に説明すること。（40点）

令和5年度北海道大学大学院法学研究科
修士課程入学者選考試験（第1次）問題

試験科目名： アジア政治史

持込み等： 不可

問一（50点）

日中戦争が戦後中国の国共（国民党と共産党）関係に与えた影響について、少なくとも以下の単語を用いて論じなさい。

（一号作戦、満洲、ソ連、北進南防）

問二（50点）

中国のプロレタリア文化大革命に至る指導者間の対立について概述した後、文化大革命期における林彪の役割と林彪事件が起きた原因について、少なくとも以下の単語を用いて論じなさい。

実権派、解放軍、国家主席、クーデター

令和5年度北海道大学大学院法学研究科
修士課程入学者選考試験（第1次）問題

試験科目名： 国際法

持込み等： 有斐閣刊行の『国際法』
(青汁・付箋紙のみ)

以下のすべての問いに答えなさい。

1. 下記の文章をよく読んで、設問に答えなさい。

2020年5月に、A国で革命が発生して新しい政権が成立し、これを契機にA国内では、旧政権と親密な関係にあったB国に対抗する運動が市民の間で激化した。とくにB国大使館周辺では、連日市民による反B国デモや抗議集会が行われ騒然とした状態にあったが、周辺地域の警備体制は革命前より強化されてはいなかった。そのなかで、同年8月に、暴徒と化した群衆（市民及び学生）がB国大使館を襲撃し、同大使館員を人質にとって同大使館に立てこもった。事件当時A国外務省にいたB国代理公使は、A国当局に対して再三事態の打開を要請したが、A国政府は積極的に対応する姿勢を全く見せることなく、この事態はそのまま継続している。さらに、2021年3月には、A国の大統領が議会の演説において、そのような群衆によるB国大使館の占拠と人質行為を支持する発言を行い、後にそれを継続する旨の大統領令を發布した。そして、2022年7月末時点においても、群衆によるA国大使館の占拠と人質行為は何ら解決されることなく継続している。なお、A国およびB国のいずれもウィーン外交関係条約の当事国である。

(1) このような事態において、国際法上、A国はB国に対してどのような責任を負うのか、説明しなさい。(30点)

(2) B国がA国に対してとることのできる法的措置について、説明しなさい。(20点)

2. 国際法の履行確保に関する制度について、既存の枠組み、特徴、限界などについて、具体的な例に言及しながら、その全体像について論じなさい。(30点)

3. 次のうちから1つを選び、適宜関連する条約、判例、事例などに言及しながら具体的に説明しなさい。(20点)

(1) 国家承継におけるクリーンスレートの原則

(2) 国際機構の国際法主体性